

地域公共交通東北仕事人メールマガジン

こんにちは。

地域公共交通東北仕事人 事務局です。

前回より時間が空いてしまいましたが『地域公共交通東北仕事人メールマガジン第3号』をお届けします。

本メルマガでは、最新の交通政策や旬のコラムなど、東北運輸局ホームページ(<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/ks/new%20page/koukipagetop.html>) で発信している情報をいち早くお伝えしていきますので、どうぞよろしくお祈りします。

第3号目次

- 仕事人コラム：「交通まち育て」・・・それは“みんなで叶える物語”
＜地域公共交通東北仕事人（H・O・T Managers 代表） 大野 悠貴＞
- トピックス： ①「地域公共交通活性化再生法一部改正法等の活用に係る東北ブロック説明会」・「地域公共交通シンポジウム in 仙台」を開催しました。
(11月25日)
②ポスターセッション（仮称）が福島市で開催されます。
- 我が町紹介： 横手市総務企画部経営企画課地域政策係 ＜小松田 義博＞
- 編集後記

☆仕事人コラム：「交通まち育て」・・・それは“みんなで叶える物語”

地域公共交通東北仕事人 大野 悠貴（弘前大学学生団体 H・O・T Managers）

今回のコラムは、仕事人最年少の私が担当させていただくことになりました。私の本業は、青森県にある弘前大学に通う修士2年生の大学院生です。20代の若造がこのような場で文章を書かせていただくのは、なんだか恐れ多い気持ちでいっぱいですが、一生懸命書いてみましたので、どうか最後までお読みいただければ幸いです。

さて、東北仕事人制度のホームページには、各仕事人のプロフィールが記されているページがあります。その中で、私のプロフィールには専門分野を「交通まち育て」と書かせていただきました。今回は、この「交通まち育て」について、私が運営しております学生団体「H・O・T Managers（ほっとまねーじゃーず：以下 HOT）」の活動を通して、ご紹介したいと思います。

◆みんなで美味しいまちを味わうための「まち育て」

HOT の活動には「交通まち育て」のエッセンスが随所に盛り込まれています。交通まち育てとは、交通・移動からのアプローチを主とした「まち育て」のことを言います。では、そもそも「まち育て」とは何なのか？

私が大学で所属している研究室の教員であり、東北仕事人の一員でもある北原啓司先生の言葉を借りるとすれば、まち育てとは「公共のためなどと、大上段に振りかぶっていくのではなく、自分の周りの身近な空間への想いやこだわりを大事にして物事を進めることが、結果的に共同性を醸し出すことになる」（北原 2009 p14）ような、人々のまちとの関わり方のことです。平たく言えば、「自分たちなりのそれぞれのスタイルでまちと関わること」と考えていただいて構いません。

具体的にどういうことなのか？

図 1 は、従来の日本の都市計画やまちづくりなどにおける「参加」を模式的に表したものです。従来の参加は主体—客体の観念が存在する中での参加であり、行政がまちという料理をつくり、それを地域住民や市民は“食べさせてもらう”という関係でした。まちづくりのイニシアチブはまちを「つくる人」にあり、まちを「食べる人」にはアンケートや落とし所が決まったワークショップなど、「形式的な参加」の機会しかありません。

例えば、「無人駅に花壇をつくって、お花でいっぱいにしよう！」という企画があったとします。従来の「参加」の形であれば、きつとつくる人がルールを決めて、決められたお花を、決められた場所に、決められたように植えるだけかと思います。従来の日本の都市計画の基本的な考え方は、多数決の原理による線引きであり、そこに多様性はありません。

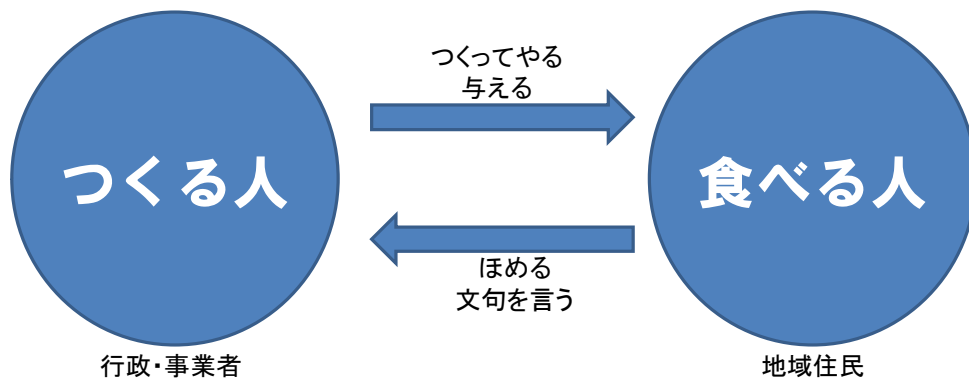


図1 従来のまちづくりにおける「参加」(※)

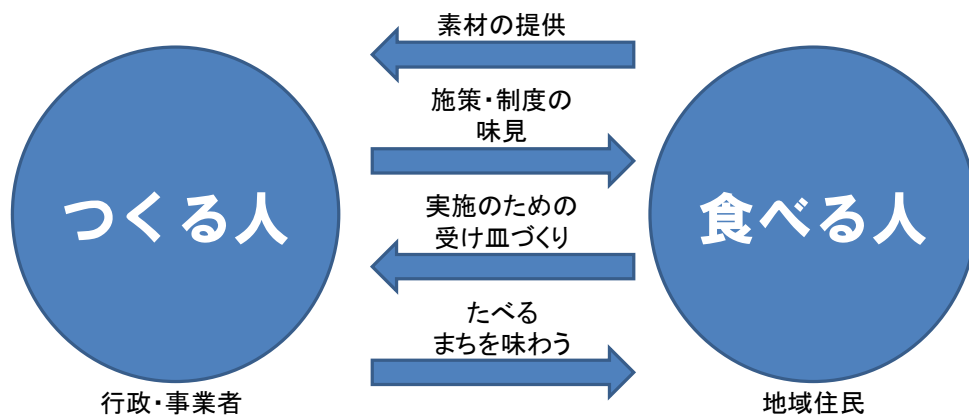


図2 まち育てにおける「参加」(※)

※『あおもりまち育てハンドブック』(青森県 2010) を基に筆者作成

一方で、まち育てにおける「参加」には、主体—客体の観念は存在しません。そして、多様な参加のあり方を許容します。

図2の模式図のとおり、まち育てのファースト・ステップは、食べる人(=市民・住民)による素材の提供です。例えば、まちの楽しみ方、まちを楽しむライフスタイルの提案などが挙げられます。「物語の提案」と言い換えても良いかと思います。次は、つくる人(=行政・事業者)の出番です。食べる人から提供してもらった資源を活かそうと、施策を講じたり制度をつくったりします。その施策や制度を実際に食べる人が使ってみて(=味見してみ)、美味しければ施策や制度がより良くなるようなアクション(=受け皿づくり)を、不味ければ何がいけなかったのかつくる人と一緒に考えたりします。こうして、つくる人と食べる人の協働作業によって出来上がったまちという料理を、みんなで美味しくいただきます。

まち育てでは、つくる人、食べる人それぞれに役割があります。したがって、イニシアチブなどという概念は存在しません。どちらも主役で、一緒にまちを育てていきます。加えて、まち育てにおける「参加」のあり方は多様なので、例えば素材の提供 1 つにおいて

も、その中身は千差万別であると言えます。

◆H・O・T Managersによる「交通まち育て」の挑戦

ここでは、「交通まち育て」の具体事例として、HOT による活動の一部をご紹介しますと思います。

HOT は弘前大学の学生を中心に、2010年9月に設立した学生団体です。弘前市やその周辺地域を主なフィールドとしていますが、最近は県外での活動も少しずつ増えてきております。主な活動として①電車とバスの情報誌「ほっと」の製作・発行、②イベントの企画・運営、③さらに2014年度からは子どもたちを対象とした乗り方教室の出前講座も実施しています。いずれの活動においても、「キッカケづくり」というキーワードを大事にしており、人々が電車やバスを利用する、あるいは関心を持ってもらえる機会となるような活動を行っています。2014年には第9回日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）において、「JCOMM プロジェクト賞」をいただきました。



図3 電車とバスの情報誌「ほっと」



図4 イベントの様子

ところで、HOTは学生団体なので、メンバーは（私も含めて）当然学生で構成されています。加えて、メンバーの構成は女子学生が99%を占めています（一時は私以外の男子学生もいましたが・・・）。彼女たち（彼ら？）のほとんどは、電車やバスが好きだとか、公共交通に興味があるというわけではありません。

私自身も、最初から公共交通に興味があったかと言うと、別にそういうわけではありませんでした。話は横道に逸れますが、私は弘前のまちに所縁があるわけではなく、大学進学に伴って北海道の札幌からやってただけでした。私がHOTをやり始めたときのモチベーションは、「“自分が”電車やバスを使えるようにしたい！」という欲求だったと思います。学生なので当然クルマを持つ余裕はありませんから、それ故の所謂“地方”での生活のしづらさ、フラストレーションのようなものを、なんとかしたいと思っていたのだと思います。「おでかけ」（accessibility）の改善が、自らのQOLの向上につながるという想いが、HOT設立のモチベーションとしてありました。

メンバーの彼女たちも、各々で異なる動機やモチベーションがあるのだと思われます。

ただ、共通することとしては、それぞれが HOT の活動を媒介にして、自分たちなりに交通やまちと関わり、情報誌やイベントなどの様々なアウトプットによって、電車やバス・まちの楽しみ方、電車やバス・まちを楽しむライフスタイルの提案といった「素材の提供」をしています。まさに、HOT の活動は「交通まち育て」であると言えます。



図5 情報誌の取材としてバスの車庫を見学



図6 活動を通して地域の資源も知る

さて、HOT の活動では、学生に拘わらず地域の多様な人々を巻き込むことを意識しています。

例えば、イベントの実施に当たっては、地元商店街や学生ボランティア、市民ボランティアなど、多様な人々の協力を得ることで成り立っています。2012年に実施した「Hiroaki Bus&Train Festival 2012」では、ポスター・チラシのデザインを地元在住のデザイナーに作っていただいたり、寸劇形式で公共交通の利用方法やマナーを紹介する「ゆるキャラ交通マナー劇場」(図8)にて、地元のゆるキャラや大道芸人、弘前大学のラジオサークルなどに協力してもらったりしています。



図7 イベントにおける地元商店街の出店



図8 ゆるキャラたちによる交通マナー劇場

情報誌「ほっと」でも、取材に協力していただいた店舗はもとより、Vol.2における「Girls meet the Bus」のページの写真は、地元のカメラマンに協力いただいて撮影しました。

このように、交通とは無関係な多様な人々を巻き込むことで、地域の人々にも自分たちなりに交通と関わる、交通まち育ての機会が生まれます。素材の提供に加わってもらうこ

とで、交通まち育ての輪が広がっていくと考えています。



図9 「Girls meet the Bus」のページ例



図10 「Girls meet the Bus」撮影の様子

◆「交通まち育て」の輪の広がり

実際に、交通まち育ての輪が広がり、自分たちで素材の提供をする人たちも現れてきました。

情報誌「ほっと」の制作にあたって取材協力していただいた店舗では、これまで弘前では見られなかった公共交通の利用を念頭に置いたチラシを“自発的に”作成しました。店舗までの路線バスの時刻・バス停の位置等を紹介しています。



図9 情報誌の取材協力店舗による公共交通の利用を念頭に置いたチラシ

2014年度から始めた乗り方教室の出前講座において特徴的だったのは、秋田県の鹿角市児童センターで親子向け乗り方教室を実施した時のことです。児童センターの主導で、乗り方教室で使用したバスに乗り、鹿角市内周辺の文化や歴史などに触れつつ、美味しいものを食べてまわるツアーを実施しました。当初はHOTによる乗り方教室を単体で実施する予定でした。しかし、乗り方教室単体では参加してくれる親子に満足してもらえないだろうと考えた児童センターの方がちが、鹿角市と協力して、“主体的に”ツアーを企画・実施したのです。そのおかげで参加者の皆さんには満足してもらい、乗り方教室としても成功しました。



図 10 鹿角市での乗り方教室の様子



図 11 バスツアーでは歴史的建造物の中で昼食

ここで紹介した店舗や児童センターの方たちは、それぞれの動機やモチベーションで主体的に交通と関わり、自分たちで素材の提供をしています。これはもう立派な交通まち育てです。

◆みんなで物語を叶えるには・・・？

最初にご説明した従来の都市計画やまちづくりの構図(図1)と同様に、交通政策もまた、つくる人(=行政・事業者)からの一方的なサービスの供給にとどまっていると言わざるを得ません。これは主観ではありますが、都市計画やまちづくりの分野が「まち育て」のほうへと移行しつつあるのに比べて、交通政策は未だ従来型の一方的な構造が色濃く残っているように思います。したがって、メンバーの言葉を借りるとすれば、交通の問題は難しく、すごく勉強しなきゃいけない。

とっつきにくいのです。

このままで良いのでしょうか？良いわけがありません。第2号のコラムで吉田樹先生も「「くらしの足」を守ることは、地方行政、交通事業者、地域が「三位一体」となって「育てる」ことが大切」と記されています。ここで必要となるのが、「交通まち育て」ではないのでしょうか？

ところで、交通まち育ては交通を良くするだけではありません。交通を良くするだけなら“交通育て”と言えば良いのです。なぜ「交通まち育て」と表現するのか？

交通まち育ては、交通を良くすることはもちろんですが、最終的にはまちや地域を良くすることを目指しています。例えば、私がHOTをやり始めたときのモチベーションは、「自分が”電車やバスを使えるようにしたい！(=自らのQOLの向上)”という私的な欲求だったとお話ししましたが、その私的な欲求は自分の住むまちや地域をより良くすることにもつながります。これこそが「まち育て」における「自分の周りの身近な空間への思いや

こだわりを大事にして物事を進めることが、結果的に共同性を醸し出すこと」であり、「交通まち育て」と表現する所以です。

交通を良くするためだけに食べる人が動くのは稀だと思います。しかし、自分の住むまちや地域を良くするため、或いはより私的な動機であれば、食べる人はどんどん動きます。HOTに協力していただいた方たち、或いは自ら交通まち育てに挑んだ方たちも、公共交通を良くするためなどと大上段に振りかぶらず、より私的な動機で動いたのだと思います。交通まち育ては私的な想いやこだわりを許容できるからこそ、多様な人々が参加でき、自分たちなりに交通と関わることができます。交通まち育ては、行政・交通事業者・地域が三位一体となるための第一歩なのかもしれません。

つくる人・・・、おそらくこのメルマガをお読みになっている方の大半がつくる人だと思いますが、つくる人の役割も大変重要です。HOTが今やっているのは、素材の提供だと思います。今後の展開としては、つくる人がつくった料理（＝施策や制度）を実際に食べる人が味見をするセカンド・ステップを迎える必要があります。そのとき、食べる人から提供された素材を活かして、施策や制度を調理するつくる人の役割は、交通まち育てを進めていくうえで本当に大事なことです。

多様な食べる人から提案された、多様性あふれる交通や地域の物語を、つくる人も食べる人も一緒になって叶えていく、「みんなで叶える物語」・・・

それが交通まち育てなのです。

最後になりますが、東北仕事人の一員として加えていただいたのも何かのご縁なのかなと感じています。私ができることは交通まち育てですが、もし何かお役に立てるのであれば、お手伝いしたいと思います。

<参考文献・資料>

北原啓司 2009『まち育てのススメ』弘前大学出版会

青森県 2010『あおもりまち育てブック』

☆トピックス

1. 「地域公共交通活性化再生法一部改正法等の活用に係る東北ブロック説明会」・

「地域公共交通シンポジウム in 仙台」を開催しました。

■日時：11月25日（火）10：00～16：30

■場所：メルパルク仙台 2F シェーナ

11月25日(火)に「地域公共交通活性化再生法一部改正法等の活用に係る東北ブロック説明会」・「地域公共交通シンポジウム in 仙台」を開催しました。

午前中の説明会では「改正地域公共交通活性化再生法」を始め、自治体の皆様への新しい支援制度等につきまして詳細な説明が行われました。

午後に行われたシンポジウムでは地域公共交通東北仕事人の北原仕事人の基調講演に始まり、富山市都市整備部長 京田憲明様・鶴岡市企画部地域振興課主査 伊藤慶也様より公共交通の取り組みについて事例発表をいただきました。

休憩を挟み、地域公共交通東北仕事人である徳永仕事人・吉田仕事人・若菜仕事人を含む4人のパネリスト、3人のオブザーバー、そしてコーディネーターの北原仕事人とでパネルディスカッションが行われました。皆様の地域公共交通にかける情熱の発露がすさまじく、また北原仕事人の名司会っぷりにより大いに盛り上がり、会場にお越しいただいた公共交通担当の皆様にはご満足いただけたのではないかと思います。

説明会の資料につきましては東北運輸局ホームページに掲載しております。シンポジウムの資料につきましては準備が終わり次第順次掲載予定です。興味のある方は是非ご覧下さい。(<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/ks/new%20page/ks-sub10-01.html>)



(写真：パネルディスカッションの様子。大変参考になりました。)

2. 「ポスターセッション (仮称)」が福島市で開催されます。

- 日時：平成27年2月20日(火)
- 場所：コラッセふくしま(福島駅西口から徒歩1分)
- テーマ：未定

福島大学准教授である吉田仕事人を中心に、来年2月に地域公共交通に関するイベントを開催予定です。今の所、ポスターセッション等を考えております。

吉田仕事人曰く「大変激しいものとなる」そうですので、地域公共交通に興味がある方は今のうちから 2 月 20 日の予定を空けていた方が良いでしょう。

詳しい内容等は決まり次第このメールマガジンでお伝えしていきますのでご期待下さい。コラッセ福島の場所等については下記 URL よりご覧下さい。

<http://www.corasse.com/>

☆「我が町紹介」③

このコーナーでは、東北各地域の方へ、自分の住んでいる市・町・村を紹介してもらいます。リレー形式のコラムになる予定ですが、今回は横手市総務企画部経営企画課地域政策係 小松田義博様に執筆いただきました。

☆横手市の概要

横手市は、平成 17 年 10 月 1 日、横手市、増田町、平鹿町、雄物川町、大森町、十文字町、山内村、大雄村の 1 市 5 町 2 村が合併し、人口 10 万人を超える秋田県第 2 の都市として誕生した。秋田県の県南地域に位置し、東の奥羽山脈、西の出羽丘陵に囲まれた横手盆地の中央にあり、東西約 45km、南北約 35km、総面積 693.04 km²の大きさを有する。

「かまくらのまち」として知られる横手。横手盆地の肥沃な土壌と特有の気候風土は、良質な作物と独自の食文化と人を育んできた。

☆歴史と文化

遠く平安時代に強大な勢力を誇った豪族・清原氏と源義家率いる都からの討伐軍が戦った「後三年の合戦（役）」の舞台となった場所で、歴史の香りが漂う地でもある。江戸時代には、佐竹藩の出城が置かれ、農業、商業で栄え、古くから酒造業も盛んであった。竹久夢二が定宿を置き、「青い山脈」の著者の石坂洋次郎が「山と川のあるまち」として紹介しており、石坂洋次郎文学記念館や秋田県随一といわれた繁栄の歴史を伝える増田の蔵など、浪漫の香りがそこかしこに残っている。

雪国秋田を代表する横手の「かまくら」は、400 年以上の歴史を持つ詩情豊かな民俗行事で、毎年 2 月 15 日、16 日の 2 日間行われる。期間中は 100 を超えるかまくらと無数のミニかまくらがまちを彩る。1200 年以上も続き国の重要無形民俗文化財にも指定されている日本最古の湯立神楽、波宇志別神社霜月神楽や屋形舟がぶつかりあう「送り盆まつり」、五穀豊穰・家内安全を祈願する「沼入梵天」、「旭岡山神社梵天」など横手には、人々の暮らしの中で古より語り継がれる祭りや文化が多数ある。

☆食と農

肥沃な大地に恵まれた横手は、春夏秋冬美味しい農産物の宝庫である。「あきたこまち」を中心とした米、りんご、ぶどう、もも、ホウレンソウ、すいか、アスパラガス、菊、シイタケの生産量は県内トップクラスで、特に主力品種の「ふじ」を始め、さまざまな品種が栽培されているりんごは、県内生産の5割を占める。生食はもとより近年はジュースの素材としても脚光を浴びている大沢地区のぶどう、豊かな甘みと酸味のバランスに優れたエレガントな白ワインの「大森ワイン」、市内産の中でも独特の食感で知られる山内地区の「いものこ」、大雄地区を中心に生産されビール独特の苦味と香りを生み出す「ホップ」、十文字地区の「さくらんぼ」など、極上の素材が揃っている。

また、B-1グランプリで日本一に輝いた「横手やきそば」をはじめ、十文字のラーメン、いぶりがっこなど横手には美味しいものがたくさんあり、グルメな街でもある。

☆横手市の公共交通

市内公共交通は、鉄道2路線、路線バス13路線、コミュニティバス3路線、タクシー会社10社により構成されている。鉄道については、南北に奥羽本線、東方向に北上線が運行し、秋田市や大仙市、湯沢市、北上市などと結ばれている。路線バスは、横手駅に隣接した横手バスターミナルを基点とし、放射状に運行されている。

現在、自家用車の普及や人口減少などの要因により公共交通の利用者は激減している。特に乗合バスは、市内完結路線のほとんどが赤字路線であり、路線維持のため市では毎年多額の財政支出を行っている。また、今後の更なる路線改廃も懸念されており、将来を見据えた公共交通体系への見直しが求められている。

このような状況の中、平成23年3月には「横手市地域公共交通総合連携計画」を策定し、「安心で住みよいまちづくり」に向けて、高齢化に対応したモビリティの確保や将来にわたり持続可能な公共交通システムの構築に取り組んでいる。

☆「横手デマンド交通」と「市内循環バス」の運行

平成24年度において、横手デマンド交通（デマンド型乗合タクシー）の実証実験を実施し、「これからの横手市にとってのデマンド交通の必要性」や「横手市にとって利用しやすい公共交通の形」について検証を行った。実証実験では、一月あたり3,000人程度の利用があり、通院や買い物など市民の日常生活に欠かせない交通手段として利用されていることが明確となった。可住地面積の広い当市にとって、小型車両で小回りの利く「デマンド型乗合タクシー」は最適な地域間公共交通と言える。

平成25年10月からは横手デマンド交通の本格運行を開始している。開始にあたっては、利用方法や料金等の情報を掲載した保存版のチラシを全戸配布する等の周知活動を実施したこと、また、実証実験時より運行日数が増加したことにより、平成25年10月以降の利用者数は一月あた

り約 3,500 人と、本格運行前と比較して一月あたり 500 人程度増加しており、身近な公共交通機関として定着しつつあると考えられる。

また、横手デマンド交通では、既存路線バスとの競合に配慮し、横手駅を中心とした市街地の一部を乗り降りすることができない「中心部バスゾーン」としている。このバスゾーン内における主要な移動目的地である、駅やバスターミナル、総合病院、スーパー等の施設を循環する交通機関として、横手デマンド交通の本格運行と併せて平成 25 年 10 月より「循環バス」の運行も開始している。

市民の生活の足の確保は地域の活力となり、地域活性化にもつながるものであり、「安全で住みよいまちづくり」の実現のためには、横手デマンド交通と循環バスのそれぞれのメリットを生かした公共交通サービスは必要不可欠となっている。

※平成 26 年 5 月、公募により決定した愛称及びマスコットキャラクター。



横手デマンド交通

のりあいくん



横手市循環バス

よこまるくん

☆今後の課題

人口減少や少子高齢化により、公共交通は大きな転換期を迎えており、代替交通やコミュニティバスの再編・転換、民営路線バスの再編・効率化、地域協働による地域公共交通の活性化と利用促進など様々な課題が浮かび上がっている。

このような課題を一つ一つクリアしながら、横手市にふさわしい新しい公共交通システム、継続可能な公共交通システムの構築を目指していきたい。

※硬い文章になってしまいましたので、気分転換に循環バスのCMをご覧ください！

→ <http://www.city.yokote.lg.jp/koho/movie000328.html>

☆編集後記

11月は本文中にも書きましたが、説明会・シンポジウムの準備で東奔西走といった様子で大変充実した日々を過ごしました。忙しく、残業も多かったですが200名を超える方に参加いただき、アンケートでは満足された方も多かった様子で、苦勞が報われた気がします。

しかし、法改正が行われたばかりであり、まだまだ気が抜ける状況ではありません。正直な所新制度についてはまだまだ勉強中の身でありますので、皆様のお話を聞きながら制度を上手く活用出来ないか模索していきたいと思っております！

お悩みや疑問等ありましたら、いつでもお問い合わせください！！

■このメールは、東北運輸局企画観光部交通企画課アドレスから発信しています。

■本メールサービスの解除を希望する方はお手数ですが、下記メールアドレスにその旨ご連絡ください。

tohoku-kikaku@tht.mlit.go.jp

■最新の情報は東北運輸局ホームページをご確認ください。

国土交通省ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/>

東北運輸局ホームページ：<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/index.html>

お問い合わせ：tohoku-kikaku@tht.mlit.go.jp

■このメールの配信を希望される方、記事に掲載を希望される方はこちら

tohoku-kikaku@tht.mlit.go.jp

■配信元：国土交通省東北運輸局・地域公共交通東北仕事人事務局

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright (c) 国土交通省東北運輸局

